

一木喜徳郎 内務官僚として地方制度確立に貢献後、宮中政治家の地位を築いたが、右翼の反感を買って引退。

いちききとくろう

大政奉還・1867 = 掛川藩士岡田良一郎の次男として、遠江国倉真村で生まれた。**岡田良平の弟。**

明治維新・1868 = 1歳 :

明治6年政変 1873 = 6歳 : 一木家の養子となる。

三つの反乱・1876 = **9歳** :

明治14年政変 1881 = 14歳 :

岩倉具視没・1883 = 16歳 : 東京大学文学部に入学、
学制改革で帝大法科大学に編入、

内閣発足・1885 = **18歳** :

国民之友始・1887 = 20歳 : 卒業して、**山県有朋内相の時、内務省に入る。**

帝国憲法発布 1889 = 22歳 :

帝国議会始・1890 = 23歳 : **地方制度研究のため、私費でドイツに留学、**

大本教・1892 = 25歳 : ドイツで「日本法令予算論」を執筆し、日本で出版後、

郡司千島探検 1893 = 26歳 : **帰国して、内務書記官となるが、**

日清戦争始・1894 = **27歳** : **以降、法科大学教授を兼ねる。**

わが国地方制度の育ての親の1人で、山県系藩閥官僚の智謀と目され、**山県の信任を得、**

ピアノ国産化・1900 = 33歳 : 貴族院議員となり、

田中正造直訴 1901 = 34歳 : ***第1次桂内閣の法制局長官となる。**

日比谷公園・1903 = **36歳** :

生家が遠江報徳宗の中心でもあり、

日露戦争終・1905 = 38歳 : **大日本報徳社社長をつとめるなど、<日露戦争>後からの報徳運動にも熱意をみせた。**

韓国反日暴動 1907 = 40歳 : 法制局長官と法科大学教授をともに辞任。

アララビ 創刊・1908 = 41歳 : **第2次桂内閣では、平田東助内相のもとで次官に就任、地方改良運動などに尽力。**

明治天皇没・1912 = **45歳** : 第3次桂内閣では、**再び法制局長官となる。**

第一次大戦始 1914 = 47歳 : 第2次大隈重信内閣の***文相、**

21ヶ条要求・1915 = 48歳 : 内閣改造で**内相となる。**

ロシア革命・1917 = 50歳 : 以降、枢密顧問官。

原敬首相暗殺 1921 = **54歳** :

水平社結成・1922 = 55歳 : **山県の死後、元老西園寺公望にも認められて、**

護憲三派圧勝 1924 = 57歳 : **枢密院副議長、**

治安維持法・1925 = 58歳 : ***宮内相となり、**

宮中政治家としての地位を築いて、

海軍軍縮条約 1930 = **63歳** :

満州事変・1931 = 64歳 :

国際連盟脱退 1933 = 66歳 : **この年までつとめたが、**

帝人疑獄事件 1934 = 67歳 : **前評判の高かった平沼騏一郎副議長を抑え、西園寺の支持で枢密院議長に就いたことから、右翼の反感を
買い、天皇機関説問題では攻撃の矢面に立たされ、**

二二六事件・1936 = 69歳 : ***二・二六事件後、一切の官職を辞退して、**

日中戦争始・1937 = 70歳 :

第二次大戦始 1939 = **72歳** :

日米開戦・1941 = 74歳 :

年金+総武装 1944 = 77歳 : **没した。**